

# 士師記 16章28～31節

私を強めてください



## 士師記 16:28~31

サムソンは主に祈って言った。「わたしの神なる主よ。わたしを思い起こしてください。神よ、今一度だけわたしに力を与え、ペリシテ人に対してわたしの二つの目の復讐を一気にさせてください。」それからサムソンは、建物を支えている真ん中の二本を探りあて、一方に右手を、他方に左手をつけて柱にもたれかかった。そこでサムソンは、「わたしの命はペリシテ人と共に絶えればよい」と言って、力を込めて押した。建物は領主たちだけでなく、そこにいたすべての民の上に崩れ落ちた。彼がその死をもって殺した者は、生きている間に殺した者より多かった。彼の兄弟たち、家族の者たちが皆、下って来て、彼を引き取り、ツオルアとエシュタオルの間にある父マノアの墓に運び、そこに葬った。彼は二十年間、士師としてイスラエルを裁いた。



## ナジル人

神の仕事をするために選ばれた人

- 酒を飲んで是不ならない。
- 死体にさわってはならない。
- 髪を切ってはならない。



# 怪カサムゾン

- ✓ 若い獅子(ライオン)を引き裂いた(14:6)



- ✓ アシュケロンの住民30人を打ち殺し(14:19)



- ✓ ジャツカルを300匹捕らえ(15:4)



- ✓ 腕を縛っていた二本の新しい綱を切り、  
ロバの顎骨で千人を殺す(15:14—16)
- ✓ かんぬきもろとも引き抜いて、肩に担い、  
ガザから60km以上離れたヘブロン付近  
の山頂まで運んだ(16:3)
- ✓ 七本の新しい弓弦で縛られても、未使  
用の綱で縛られても、糸のように腕から  
切り落とした(16:7~12)



サムソンは聖書で最も、人間の  
「弱さ」というものを教えられる人物

サムソンは怪力で知られていたが、  
最後は、デリラという女性に惚れ込  
んで、自分の怪力の秘密を明かして  
しまい、力を失って捕らえられる、  
呆気ない幕切れ。。。



# 「死ぬほどつらかった」(16:16)

- ◆ 人の非難に弱く、振り回されやすい
- ◆ 短気で怒りっぽく、負けず嫌い
- ◆ 女に弱く、しかも“気に入ったから”  
と言って、外国人、つまり異教徒の  
女とでも結婚する

士師記 16:28 (新改訳)

神、主よ。どうぞ、私を御心に留めてください。ああ、神よ。どうぞ、この一時でも、私を強めてください。



もう一度の恵みのチャンス

「死ぬほど辛い」

しかし、

「また伸び始めた」





サムソンの強さの秘訣は、主の霊の働きにあります。

そしてサムソンは決定的な挫折を通して、主に祈る者とされました。私たちも御霊の働きでイエスを知り、そして碎かれることを通して祈りの人となり、主と共に歩んでいきましょう。